

介護専門職の総合情報誌

おはよう21



認知症と間違えやすい うつ・せん妄の理解と ケアのポイント

特集

違いを
知りたいわ



マネジメント特集
過ごしやすく働きやすい
環境・設備を整える



現場の疑問をすっきり整理
介護保険・社会保障
制度情報

利用者を快適にする
排便ケアのプロになろう

テーマ別
職場内研修はここを押さえる

症状別に押さえる
認知症の医学知識

「本人主体」を実現するための
認知症ケアのポイント



新しい時代の研修活用法

第1回

人材不足を 研修によって克服する

研修によって解消される 「人材不足感」

人材不足を感じている事業所ほど、研修に力を入れる必要がある

「科学的介護」の推進が提唱されるなど、さらなる質の向上が求められる介護現場。職員への教育・研修への関心が、以前にも増して高まっています。しかし、人手不足が慢性化するなかで、一定人数が研修等を受講することは、本来の業務との両面で大きな課題です。そんななか、職員がストレスなく研修に参加できるネット配信による研修システムを開発、介護業界の注目を集めているのが、お茶の水ケアサービス学院です。

本連載では学院長の神智淳氏が、システム開発の経緯とともに、職員研修の意義、効果的な研修導入法、オンライン研修の今後の展望などについて、3回にわたって語ります。

私たちが研修事業を開始した20年前も、介護保険という新しい制度の対応に追われており「人材不足で、今はそれどころではない」というのが多くの現場の声でした。

私は多くの事業所の職員が指摘する「人材不足」とは、正しくは「人材不足感」だととらえています。たとえ人材が量的に満たされていても、現場で実務にあたる職員が、仕事の進め方に不安を感じている限り、その施設の「人材不足感」を拭い去ることはできません。自らが実践している介護技術に自信をもち、職場における将来像をはっきり描くことができる職員の存在が「人材不足感」を解消してくれます。研修への参加は、職員が自信をもって業務

にあたるための近道。良質な研修は「人材」を、事業所にとつての財産すなわち「人財」に育ててくれるはずですから、

研修の目的は、自己流ではない確かな知識・技術を習得し、専門性を身につけてもらうこと

また、職員が自信をもって業務を行うには「知識と技術の標準化から得られる専門性」が必要になります。

介護現場には、それぞれ異なった場所での知識、技術を身につけてきた職員が集まっています。自分の実践が、自



フォローアップ研修動画の一場面。配信数は2021年7月現在703本。今後も現場に必要な多様なテーマで動画を配信予定。



介護技術動画の一場面。三方向からの画面により、手技の細かい点も把握できる。

己流ではないかと不安に感じることも多いでしょう。研修によって標準化された知識・技術を職員に身につけてもらうこと、それが私たち研修機関の基本的な役割と考えます。

現場における 負担軽減を目指して、 eラーニングをスタート

職員を研修に送り出すことが難しい現場では、eラーニングの導入が効果的

当学院の集合研修を利用する事業所が増加する一方、「職員を研修に参加

させたいが、送り出す余裕がない」といった声も耳にするようになりました。そこで、研修に踏み出せずにいる職員の負担を軽減し、なおかつ、講義の質が維持できる学習システムを追求した結果、業界初の試みとして2006年、本格的にeラーニングを導入しました。

現場の声に立ち返り、 業務と両立できる システムを構築

ストーリーミング配信による「定額・見放題」の研修が、介護現場のニーズにフィットする

eラーニングによる研修をスタートさせるにあたり、業界のトップを切るということもあり、当初は最新の技術を活用した、フルスペックのシステムを準備しました。

それが、職員の間接業務の時間を増やすことになってしまったのです。事業所のネット環境も様々で、職員がパソコンに長時間向かうのはとても難しいことだと思えます。気負いすぎた結果の失敗でした(笑)。

そこで、原点に立ち返り、改めて現

場の声を取り入れることに力を注ぎました。当学院がコンサルティングや外部評価事業を担っていることも、利用者への声の把握につながったと思います。現場の声を分析した結果、到達したのがストーリーミング配信です。学習時間を細分化でき、受講する職員のシフトに応じた柔軟なスケジュールを立てられるなど、本来の業務により集中することが可能となりました。また、一施設、定額・見放題で、コストの大幅減も実現しました。

*

こうしてネット配信型の研修として『フォローアップ研修・ネット配信サービス』(2019年1月配信開始)と『介護技術動画マニュアル・ネット配信』(2020年5月配信開始)が誕生しました。おかげさまで、2つの配信で3900事業所、11万7000人以上の方にご利用いただき、さらに登録者数が増え続け「あきらめていた外部研修に職員を参加させることができた」という声が寄せられています。

当学院のネット配信が、わが国の保健・医療・福祉分野のサービス向上のボトムアップの一助になっているとしたら、これほどうれしいことはありません。



Jin Tomiatsu

お茶の水ケアサービス学院長、コ・メディカルアカデミー学院長、日本健康医学会監事。老年学修士。介護施設、国、自治体、公益法人等多数の育成プログラム構築に関わるほか、福祉サービス第三者評価者、介護サービス情報公表の調査員の指導・育成に従事。各公益団体との共同研究や外部評価に関する講演や執筆活動、介護施設等のコンサルティングも行う。

